

会議状況等報告書							報告者	永露 真佳			
会議の名称		令和4年度第3回おおぶ文化交流の杜図書館運営委員会									
日 時		令和5年1月30日(月) 午後1時30分～午後2時55分					場所	おおぶ文化交流の杜図書館 サポーター室2			
出席者	委員	加古 有子	松岡 礼子	岡田 知之	山川 剣	鈴木 善博	岡田 容子	赤堀 路世	神田 由美		
		○	○	○	欠席	欠席	○	○	○		
	事務局	信田 部長	田中 課長	大河内 係長	永露 主任	林 主任	上野 図書館長	小倉 マネージャー			
		欠席	○	○	○	欠席	○	○			
傍聴者 1名											
内容											
<p>1. 委員長あいさつ</p> <p>GW明けには新型コロナの分類が変わり対策も今後変わっていくだろうが、感染が爆発的に増えることも考えられる。その時どうしていくかをこういった場でも考えていければと思う。また私たち一人ひとりも気をつけていく必要があると思う。</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) 令和4年度8～11月期事業実施報告について</p> <p>(2) おおぶ文化交流の杜図書館をさらに魅力ある図書館にするために ※資料1～5に基づき事務局説明</p> <p>【意見交換】</p> <p>(委員) 資料1のレファレンスについて。レファレンスという言葉はよく聞くが自分自身よくわかっていない。どういう方がどういうときに使うものなのか。</p> <p>(館長) 図書館で調べものをしたいとき、本がどこにあるかわからないとき、論文を書くときにどの資料を使っていいかわからない時など内容は多岐にわたり何でも聞ける相談コーナーのようなもの。利用者は研究者に限らず、一般の方からの趣味の質問など様々。比較的年齢の高い方の利用が多いように思う。</p> <p>(委員) 簡易レファレンスも件数に入っているか。</p> <p>(館長) 「内容はわかるがタイトルが分からない。」「児童書コーナーはどこか。」などの簡易レファレンスは資料の件数に入っていない。レファレンスはカウンターで対応することもあるが、もう少し深く知りたい場合などはレファレンスカウンターにご案内している。子どもからの受付もしている。</p> <p>(委員) 「何か困ったことがあったら図書館へ行けば解決の糸口が見つかる」という利用の仕方が図書館にあるということをもっと市民の方に伝え、もっと広がっていくといいと思う。ぜひ大府市もレファレンスに力を入れてほしい。</p> <p>(委員) レファレンスのことがよくわからなかったが、こんなことでも聞いていいのだということが知れてよかった、図書館に来るきっかけになるかもしれないのでぜひ</p>											

PRしてあってほしい。

- (委員長) 一般的には図書館は本の貸し借りをする場所というイメージがあるかもしれないが、情報学習センターとしての役割もあることがなかなか知られていない。それをどうやって打ち出していくかということが図書館の課題になると思う。
- (館長) 市報にレファレンスの記事を掲載したら反応が多かったため、PRが大切だと改めて感じた。今後もPR活動を進めていく。
- (委員長) 貸出冊数が戻ったが入館者が戻らないという問題については、継続して来館している方の来館頻度が減っていることが原因かもしれない。これまで月2回来ていた方が月1回になった等の影響もあるかもしれない。
- (館長) コロナの影響で、図書館にふらっと本を読みに来る方が少し減ったのかもしれない。当館だけでなく近隣の図書館でも同じようなことが起きているようだ。
- (委員) 館内の椅子の設置はどのくらい戻っているのか。
- (館長) ソファはすべて出した。椅子も7割強は戻している。しかし以前のようにソファに座って読んでいる方は減っているように思う。感染対策についてはいろいろ話あっており、今後も検討していくことになると思う。
- (委員) 実際に来年から教員になる4回生の学生が卒業論文を書くのに図書館にお世話になった。「小学校国語教室における絵本を利用した発問の開発」というテーマの論文で、対象とする絵本作家に関する人気のタイトル上位10位など様々なデータを調べてもらい、そこから授業を組み立てていった。まさに図書館ならではのデータを活用させてもらい非常に感謝している。将来、図書館を活用できる先生になると思う。
- (館長) 実際学生からの問合せや卒論に関しての問合せはかなりあり、メールでいただくことが多い。
- (委員) 貸出冊数が全国1位という実績は非常に信頼性がある。学生たちもこの図書館を頼りにしていると思う。
- (委員) 今図書館に除菌機があるが、除菌はもちろんほこりも取り除けるとある。古い書籍などは開くと目が痛くなることもあり、借りるのをためらうこともあるため、ぜひコロナ禍が終わっても設置してほしい。またもっと有効なものがあればぜひ取り入れてほしい。
- (館長) 除籍をしたり、新しい資料も数多く購入しているが、児童のものなどは傷んでいるものも多い。除菌機は今後も活用していく。
- (委員) 電話、メール、窓口のクイックレファレンスについても、内容不要でいいので数値をレファレンスと分けて統計を出してほしい。
- (委員) 外国語書籍の棚があるが、スペイン語の書籍が以前の場所になかったため、レファレンスに確認したら別の場所に分かれて置かれていた。図書館スタッフの方も探すのに苦労していた。どのように分けているのか。
- (館長) 分かりやすいように設置している。
- (事務局) 一人当たりの年間貸出件数はわかるか。1回登録してその後図書館を利用しない方への対応として、例えばメルマガのように登録メールに新刊が入った際お知らせをするなどのアプローチをしてもよいかもしれない。市外の方は広報が見られないがメールであれば市内外の方にも広く知らせることができる。

(委員) SNS は利用しているか。

(館長) ツイッターとフェイスブックを利用して主に講座やイベントなどの告知をしている。市内には限定できないが全体には出すことができる。登録者数は約500人くらいだと思うが伸び悩んでいる。インスタはまだ利用していない。

(委員長) 子育て世代ではインスタが一番よく見られていると言われている。若い世代にはいろいろなアイデアがあるので聞いてみてもよいかもしれない。

(委員) 統計から分析するとやはり市外の割合が多く、課題のひとつかと思う。安城は市内の地区別、市外は市町別、1年間に借りた人の実人数が出る、大府も出るという。貸出点数÷登録者数で1人あたりの平均貸出点数が出るが資料によると平均が6.24冊となり、平均より高い地区が長根町はじめ5か所となる。通常図書館から近い地区の貸出冊数が多くなると考えられるが、柘山町はじめ周辺地区は平均より低い数値となっており、不思議に思う。数字の報告だけでなく数値を分析して課題を洗い出すような作業もぜひしてほしい。緑区の方が多いのは地域の図書館よりも大府の図書館に魅力を感じているからかと思う。その理由は何故か、市外の需要も大切なのでまた考えてみてほしい。

(事務局) 中央図書館の時代から緑区の利用者は多い、アローブ図書館になる際、緑区の方から引き続き借りられるよう要望があったとも聞いている。図書館の利用だけでなく例えば音楽関係のイベントでも緑区の方が多い傾向があるように感じている。

(委員) 利用登録に条件はあるのか。

(館長) ない。市内外含めどなたでも登録できる。

(事務局) 活発な議論してくださり感謝する。貸出作業について95%近くがIT化されている中で、生身の人間が提供できるサービスとして直接声を聞きながらよりよい回答をすることのできるレファレンスは重要なものであり、今後もしっかり対応していきたい。またIT化したことでよりの確なデータ抽出をするための方策にもなるため、こちらもしっかりやっていきたいと思う。

(事務局) 来年度から山川委員と岡田委員は別の方に代わる。また以前話のあった県内視察については来年度の第2回に行きたいと考えているのでまた次回説明する。また来年度は月曜日の開催が中心となる予定である。

【次回開催連絡】

令和5年度第1回おおぶ文化交流の杜図書館運営委員会

日程：令和5年5月～6月頃

場所：おおぶ文化交流の杜

以上